

S P E E D 研究会

未踏科学技術協会 (会長 伊坪 徳宏・東京都大 学教授) は先月 13、14 日の 2 日 間、静岡県伊豆 今井浜東急ホテル で毎年恒例の「エ コイノベーション とエコビジネスに 関する研究会 (略 称・S P E E D)」 夏季セミナーを開いた。「持続可能性に向けた大転 換」をテーマに、大学・研 究機関や企業、団体などか ら 15 名が講演。炭素税など のカーボンプライシング (炭素価格付け) やグリー ンボンドなどの経済的手法

脱炭素化の技術・活動を紹介

夏季セミナー、15名講演

をはじめジオエンジニアリ ング (気候工学)、サーキ ュラーエコノミー (循環経 済) など、脱炭素社会に向 けて求められるさまざまな 技術や活動が紹介された。

今回のセミナーには、大 学や企業などの会員 30 名以 上に参加した。13日には、 国立環境研究所の春日文子 特任フェローから、地球環 境に関し、さまざまな主体 や分野間で連携する研究プ ラットフォーム「フューチ ャー・アース」について、 地球環境研究機関 (I G E S) の小嶋公史氏から、日 本の「2050年80%削 減」目標に向けた炭素税な どの「グリーン税制」のあ り方を紹介。持続可能な開 発目標 (S D G s) に関 し、味の素とパナソニック、富士通、三井化学の 4 社によるパネルディスカッ ションも行われた。

また14日には、東京オリ ンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会の田中 丈夫氏が、3月に策定され た「持続可能性に配慮した 調達コード」などの取り組 みを紹介。玉川大学の島義 夫教授は、環境省が3月に 策定した「グリーンボンド ガイドライン」について、 カーボンプライシングに関 しては伊坪会長が環境影響 評価を用いて分析した結果 を紹介した。